

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 15 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00001

研究課題名(和文) 意識変容の現象学 哲学・数学・神経科学・ロボティクスによる学際的アプローチ

研究課題名(英文) Phenomenology of Altered Consciousness: An Interdisciplinary Approach through Philosophy, Mathematics, Neuroscience, and Robotics

研究代表者

田口 茂 (TAGUCHI, Shigeru)

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：50287950

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、哲学者・数学者・神経科学者・精神医学者・ロボティクス研究者の直接的で緊密な連携により、人文科学・自然科学・数理科学の知見と方法が研究の構想段階から一体となって行われる学際的な意識研究の新しいスタイルを生み出すことができた。これにより、現象学的な時間意識の構造を、数学の圏論で用いられる「モノイド」の概念によって形式化することができたほか、環境の中で何かが「目立つ」ことを意味する「サリエンス」を、一種の「アフォーダンス」として理解し、これに精緻な分析を加えることにより、精神病症状の「異常サリエンス仮説」をアップデートするという、精神医学にとって高い意義をもつ成果を生み出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学際的研究は、単なる分業によって行われることも多いが、本研究では、研究の着想段階から、緊密な議論によって人文科学と自然科学・数理科学が融合した研究を実現しようということを示した。この点で、新次元での異分野融合研究の展開に先鞭をつけたと言える。こうした研究スタイルにより、従来の学問分類からは位置づけの難しい独創的な成果が生み出された。二つの主要論文は、哲学・数学・神経科学・精神医学・心理学などに跨った研究となっており、従来の学問間の境界を大幅に乗り越えた成果となっている。こうした研究は、人間の心・意識という多分野の学問が交差する現象に対して学問的に精緻にアプローチする新しい方法を示している。

研究成果の概要(英文)：This study, through the direct and close collaboration of philosophers, mathematicians, neuroscientists, psychiatrists, and robotics researchers, has created a new style of interdisciplinary consciousness research where the insights and methods of the humanities, natural sciences, and mathematical sciences are integrated from the planning stage of the research. This approach enabled us to formalize the structure of phenomenological time consciousness using the "monoid" concept from category theory in mathematics. Furthermore, by understanding "salience" ---which means something stands out in the environment---; as a type of "affordance" and conducting a detailed analysis of salience from this perspective, we were able to update the "aberrant salience hypothesis" of psychosis, achieving results of significant importance to psychiatry.

研究分野：哲学

キーワード：意識 現象学 哲学 神経科学 ロボティクス 圏論 精神医学 数学

1. 研究開始当初の背景

「意識」の問題は、もはや哲学のみが取り上げる研究対象ではなく、神経科学・ロボティクス・人工知能 (AI) 研究などを巻き込んで展開する大規模な学際的研究のテーマとなっている。統合情報理論やグローバルワークスペース理論をはじめとして、様々な科学的意識理論が提唱されており、予測符号化理論、自由エネルギー原理から意識にアプローチしようとする動きも盛んである。しかし、「意識のハードプロブレム」として語られるような、客観的に観察しうる事象と主観的に経験される意識体験そのものとの間に横たわる溝は、かえって容易に乗り越えることのできない問題としてますます浮き彫りになりつつある。この溝は、「意識」という現象に対するときのわれわれの理論的枠組みが、十分に機能していないことを示している。主観的な現象を探究する際の哲学的アプローチと、客観的な現象の研究に威力を発揮してきた経験科学的アプローチとを、満足のいく仕方で媒介する理論的枠組みが欠けているために、「意識」という同じ問題を扱っているにもかかわらず、両者を横断する視点をもつこと、両者の成果を統合することが困難なのである。

このような状況において、何より求められているのは、哲学者、神経科学者、精神医学者、数学者、ロボット研究者、認知科学者などが一堂に会して、密接に議論し合い、緊密な共同研究を行うことである。分野を代表して対峙しあうのではなく、同じ研究テーマを共に追究し、互いに自分のもたない知見やスキルを補い合って、より高い目標を達成する緊密な学際的チームを形成することである。本研究の開始時点において、海外では、意識研究に関していくつかそのような拠点が形成されつつあったが、国内にはまだそのような拠点は明示的な形では見られず、個人間の連携に留まっていた。2019年に北海道大学に人間知・脳・AI研究教育センター (CHAIN) が設立され、本研究計画の代表者である田口茂がそのセンター長に就任した。さらに、本研究計画の分担者である吉田正俊、宮園健吾が、2020年に次々に北大に移籍し、それぞれ同センターの特任准教授 (当時)、文学研究院准教授かつセンターのコアメンバー (兼務教員) となった。これにより、本研究開始時点において、国内に学際的な意識研究を一つの目的とする共同研究拠点が生まれた。本研究計画には、ほかにも国内の諸大学から同じ目的を共有する第一線の研究者が各分野から加わり、意識の学際的研究を推進する体制が整った。

2. 研究の目的

このような状況を背景として、本研究は、現象学者・数学者・経験科学者の緊密な共同研究を通して、各自の知見を摺り合わせ、「意識」にアプローチするためのより普遍的かつ有用な理論的枠組みを提起することを目的として開始した。その際、多分野の知見を共通のテーマへと収斂させるために、本研究では「意識変容」にターゲットを絞り、「正常な」意識と「変容した」意識とを対照することで、それでも残る意識のより普遍的で基本的な特徴とは何かを炙り出してゆくことを目指した。また、本研究に先立ち、代表者の田口は、京都学派の哲学者・田辺元にインスパイアされた「媒介」の概念を彫琢し、これに依拠した哲学と科学の接合を試みてきたが (Tsuchiya, Taguchi & Saigo 2016, 吉田 & 田口 2018, Froese & Taguchi 2019)、この試みをさらに展開し、各分野の第一線で活躍する研究者を結集することで、現象学と神経科学・ロボティクス・精神医学の対話をさらに深め、それらをつなぐ方法論として数学の圏論を本格的に活用することが本研究の目的であった。こうした研究により、「意識とは何か」という問いの探究を、学際的な仕方でも先を進めることが第一の目的であるが、同時に、哲学的なヴィジョン、神経科学の実験的知見、精神医学からの多彩な事例、ロボティクスの構成論を深く交差させ、それらを数学の「圏論」を通じて統一的な見解へとまとめ上げるという新しいアプローチを実地に試し、方法論として練り上げるということも、第二の目的として追求された。

3. 研究の方法

学術的な方法としては、以下の四つの方法を組み合わせて研究を行った。①哲学的・現象学的方法による意識の記述的分析、とりわけ意識の変容態を探究することで、意識の本質的な特徴を非本質的な特徴から区別して浮き彫りにすることを試みた。②計算論的神経科学、計算論的精神医学の方法を用いて、意識の様々な変容態、たとえば幻視や妄想性誤認などを分析し、正常意識からの変容の構造をモデル化する。③現象学的視点と計算論的手法をつなぎ、構成論的に意識を研究する方法として、谷、山下らによる認知脳ロボティクスを採り入れ、行為が滑らかに行われている場面と障害にぶつかった場面との間で、どのような意識変容が見られるかを考察する。④これらの研究を総合しつつ、正常意識とその変容態との関係構造を明確化するために、数学の一分野である「圏論」 (category theory) を用いる。

とりわけ圏論を用いる点に本研究の独創性がある。圏論は、要素としての対象ではなく**対象の関係の総体**に着目する体系的な方法論を提供するものであり、必ずしも要素に還元できない意

識現象と相性がよい。「計算論的」と呼ばれる特性の多くは、数学的には「圏論的」とも解釈することができる一方、西郷・田口『〈現実〉とは何か』（2019）が示すように、圏論と現象学も親和性が高い。したがって、圏論を介して計算論と現象学をつなぎ、それによって「意識」を解明する新しい枠組みを提示することが可能である。

具体的な研究の進め方は、以下の通りである。基本的にメンバー全員が参加する全体ミーティングで、各研究の方法を互いにより深く知り、互いの見方を摺り合わせていくことから開始した。初年度には、12回の全体ミーティングを行い、そのなかで互いの関心が一致する点を抽出した。これにより、二年目はA.「時間論グループ」とB.「計算論的意識論グループ」という二つの分科会を作り、全体ミーティングと並行してよりの絞った議論を行った。そのなかで、A.現象学と圏論を融合させることによって時間性の基礎構造を形式的に表現することを試み、この試みを認知科学およびロボティクスの観点から多角的に検討した。B.サリエンスとアフォーダンスの関係を、神経科学・精神医学・心の哲学・認知科学の観点から分野融合的に研究する方法をとった。

4. 研究成果

(1) 2020年度の研究成果

初年度には、全体ミーティングによる集中的な討議により、メンバー間に関連する各分野に関するより踏み込んだ理解が形成され、相互作用により新しいアイデアが多く生まれた。とりわけ、現象学系の哲学に対して神経科学・ロボティクス分野の知見が関連づけられ、また逆に神経科学・ロボティクス分野の実証的研究成果に対して現象学的な観点から解釈や整理がもたらされるという相互作用が生まれた。両者が一体化したところに、数学、とりわけ圏論の観点から、両者を包括する形式化のアイデアがもたらされた。吟味の結果、そのなかで最も有望だったのが圏論の「モノイド」の構造であり、これを用いて、精神現象一般の遷移パターンや、正常意識の遷移パターンと、変容した意識(精神疾患)の遷移パターンとを対比して捉える可能性が示された。

この方向性をさらに追究するための方途を議論した結果、まず二つの方向性に研究を集約していくことが有益であるという結論に至った。A. 一つは意識変容、さらには意識一般の最も基礎的な現象形式である「時間性」を、圏論的な観点から再定式化するという研究方向である。現象学では、把持・原印象・予持といった基礎概念を用いた時間論が多く議論されてきたが、圏論的観点から現象学的時間論を根本的に再吟味するならば、これをより明確化し整理して示すことが可能であるという見通しが示された。B. もう一つは、サリエンス (salience) の多義性と構造を整理して意識変容におけるその意義を明確化するという方向性である。統合失調症をはじめとする意識変容の事例と関連づけつつ、ここで浮上してきたのは、サリエンスと自由エネルギー原理およびアフォーダンスとの関連である。

(2) 2021年度の研究成果

この年度から、A. 時間論グループ（田口、西郷、谷、田中、富山、柳川、武内）とB. 計算論的意識論グループ（吉田、山下、西尾、宮園、協力者・鈴木啓介）とに分かれて研究を推進した。A. 時間論グループは、前年度の研究を受け、現象学的な「時間」の捉え方について、さらに踏み込んだ考察を行った。現象学的時間論を専門とする柳川耕平が博士研究員としてグループに加わり、月に1回ほどのペースで研究会を行った。現象学、圏論（数学）、ロボティクス、精神病理学等の知見を持ち寄り、離人症や統合失調症、自閉症などにおける時間意識の変容をできるだけ構造化して理解し、圏論を用いて定式化する方法を議論した。とりわけ現象学で言う把持 (retention) と予持 (protention) の相互媒介構造を圏論によって形式的に表現する可能性が開かれてきた。また、時間と身体性のつながりについても議論し、原初的な「感じ」の無数のうごめきから、「矢印」的な動きの形が生成してくるプロセスとして、時間の原初的な生成を描くという構想に一定の形を与えることができた。

B. 計算論的意識論グループは、前年度の議論から浮上してきた新しいアイデア、すなわち「サリエンス」と「アフォーダンス」を結びつけて理解するというアイデアを追究し、6回の研究会を行った。とりわけ統合失調症に関する「異常サリエンス仮説」と、精神疾患へのアフォーダンス概念の適用について詳しく検討し、両者を「行為」を媒介として結びつける可能性が示された。予測符号化理論および自由エネルギー原理との関連も多角的に議論し、それにもとづいて「知覚サリエンス」と「動機サリエンス」の本質的な近縁性を浮き彫りにすることができた。この点と、サリエンスをアフォーダンスの一種と捉える視点を組み合わせ、統合失調症における発症メカニズムをこれらの視点から捉え直すというアイデアが固まり、論文文化を目標として焦点を絞った研究に移行した。

(3) 2022年度の研究成果

A. 時間論グループは、2021年度までに議論を深めてきた現象学的時間論に関する圏論的解釈を論文にまとめる作業を進めた。このグループでは、時間論の基礎を、諸分野に共有されるような、できるかぎり単純かつ明晰な形式に落とし込むことを試みてきたが、圏論を用いることによって、その成果を曖昧さのない形式に落とし込むことが可能となった。とりわけ、現象学的時間論に見られる一見すると矛盾的な時間構造——「立ちとどまりつつ流れる現在」の構造——が、圏論の「モノイド」を用いるなら、きわめて明晰に、矛盾のない仕方で表現しうることが明らかになった。この成果は、Taguchi & Saigo (2023) *The monoid-now*. *Front. Psychol.* 14 として出版することができた。また、この研究から、多くの関連業績が生まれている。

B. 計算論的意識論グループは、7回の研究会を行い、研究成果の論文化に向けた討議を進めた。前年度に議論された「サリエンス」についての詳細な議論の一部を論文にまとめる作業を進め、とりわけ、サリエンスとアフォーダンスとの間に本質的なつながりがあるという点について、踏み込んだ解釈を展開した。そこでは、神経科学、心の哲学、心理学、精神医学、予測符号化理論等が融合した理論が展開されている。この論文は「サリエンスをアフォーダンスとして捉え直す：能動的推論の視点からの、精神病症状の異常サリエンス仮説への示唆」(吉田正俊、宮園健吾、西尾慶之、山下祐一、鈴木啓介)としてプレプリントサーバーJxivにて2022年9月1日に公開された。この論文では、サリエンスという概念を掘り下げることによって、統合失調症における発症メカニズムとして提唱されている「異常サリエンス仮説」を更新し、実験検証可能な仮説を提唱した。本成果は、哲学者、神経科学者、精神科医、認知科学者による学際的な議論から、精神医学に貢献する具体的な理論を提出した点に意義がある。

なお、本成果については、北海道大学・部局横断シンポジウムにおいて2022年10月28日に口頭発表を行い、優秀発表賞を獲得した。また、本成果を元にして日本語総説の執筆を行い、人工知能学会が出版している月刊誌「人工知能」2023年11月号に掲載された。

(4) 主な出版業績の内容

本研究を通じて、異分野の研究者が密接な共同研究を行うことにより、各メンバーが単独では到達できなかった様々な新しい知見や視野を獲得することができ、その成果を生かし各自が多数の論文を発表することができた。そのなかでも、とりわけ本研究を特徴づけるのは、以下の二つの論文である。

第一に、時間論グループの成果を論文化した Taguchi & Saigo (2023). *The monoid-now: a category theoretic approach to the structure of phenomenological time-consciousness*. *Front. Psychol.* 14 である。この論文は、現象学的時間分析が指摘する「現在の二義性」、すなわち「立ちとどまりつつ流れる現在」という一見矛盾的な時間のとらえ方に対して、圏論を用いて新たな理解の方法を提示したものである。一方で現在は次々に移り変わり、絶えず別の現在となるにもかかわらず、現在はどこまでいっても現在であり、いつでもわれわれは現在の内に生きている。このような現在の遷移性と恒常性は、概念的には相容れないように見えるが、われわれに生きられた時間のあり方は、その両者を同時に実現している。これを自然言語で表現しようとすれば、「立ちとどまりつつ流れる」といった表面的には矛盾した表現を用いざるをえない。「永遠の今」といった表現も、「今」という語が通常は一時的暫定的・刹那的に捉えられるとすれば、そのなかに矛盾を含んでいると言えるだろう。これに対して、圏論における「モノイド」の構造を用いるなら、ここに見られる「現在の」構造を全く矛盾を含まない仕方で明晰に表現することができる。モノイドとは、ただ一つの対象をもつ圏のことであり、いずれの射 morphism (矢印 arrow) も同じ対象から同じ対象へと還ってくるループを描く (Fig. 1)。

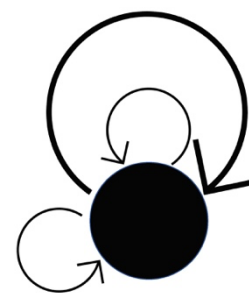


Figure 1. Monoid

この構造を用いると、現在の二義性は、モノイドにおける対象の唯一性と、射の複数性に対応するものとして形式化できる (Fig. 2)。さらに、モノイドをコスライス圏に展開すると、個々の現在を別々の現在として並列する見方に対応する形式が得られる。初期仏典や道元の『正法眼蔵』に見られる瞑想的な意識状態の記述を参照すると、こうした圏論的な形式化に非常によく適合した表現が随所に見られることがわかる。このことは、こうした形式化が「現在の」経験の構造をある程度正確に反映していることの傍証と考えられる。

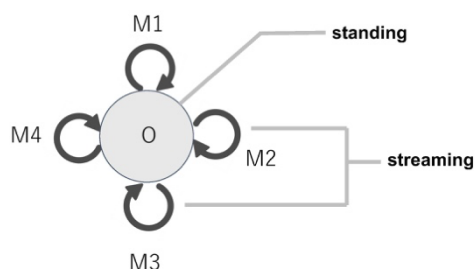


Figure 2. Standing and Streaming

第二に、計算論的意識論グループの成果を論文化した、吉田・宮園・西尾・山下・鈴木「サリエンスをアフォーダンスとして捉え直す：能動的推論の視点からの、精神病症状の異常サリエンス仮説への示唆」(Jxiv)である。「サリエンス」とは、周囲の環境のなかで、何か「目立つ」ということを意味する。「サリエンス」という言葉は多義的に使われる。「知覚サリエンス」という言葉は、知覚的に周りと比べて目立つという特性を表している。これに対して、「動機サリエンス」という言葉は、物体に情動価を付与させる働きとして捉えられている。これらの関係はどのようなになっているのだろうか。上記の論文はこの問いに答えることを目的としている。この研究により、精神医学において提唱されている「異常サリエンス仮説」(ASH)を精緻化できる可能性がある。精神病症状の異常サリエンス仮説 (aberrant salience hypothesis of psychosis) は、精神病症状の発達から回復までを統合的に説明したものとして重要性が高い。しかし重要な問題点として、サリエンスという言葉が曖昧だという点がある。そこでこの論文では、まず現状でのサリエンスの定義を明確にするため、知覚サリエンスと動機サリエンスに分けて考える。そしてこのサリエンスを「アフォーダンス」として捉えるという、新しい考え方を提示している。この考え方は、二つの方向性、すなわち心理学の哲学と情報理論的な脳のモデル (能動的推論) から支持される。このような視点からサリエンスを捉え直すことで、サリエンスは epistemic affordance, exploitive affordance, aversive affordance に分類できることがわかる。このようなサリエンスの捉え直しは、ASH をより精緻なものとするにつながる。すなわち、ASH においては、epistemic affordance と aversive affordance 両方の亢進を考慮する必要がある。ここで前者は対象への接近を動機づけるが、後者は対象の回避を動機づける。このようなコンフリクトが患者を苦しめ、なんらかの認知的な解決を患者に要求することになる (Fig. 3)。このことは ASH で語られる「サリエンスの誤帰属」という見方からは見えてこない。この点で、本論文の見方は精神疾患におけるサリエンスの解釈に関してより高い解像度を実現している。本論文では、最後に以上のことと脳部位との対応について議論し、さらに本論文で提案される考えの応用範囲について議論している。

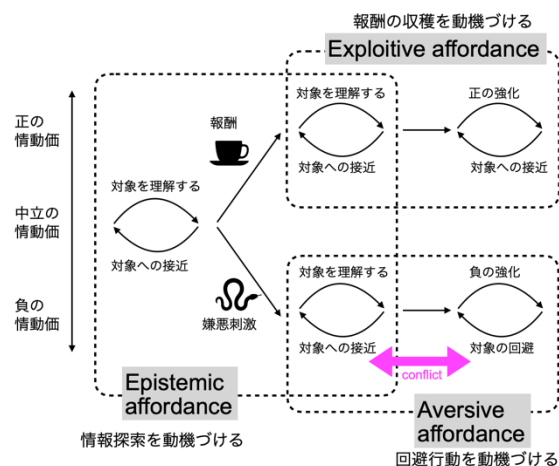


Figure 3. 3つのアフォーダンスの関係

(5) アウトリーチ

本研究の成果は、各メンバーがそれぞれ様々な国際学会、国内学会、招待講演などで発表してきた。2022年1月には、ハイデルベルク大学の Thomas Fuchs 教授を招き、The Significance of Phenomenology Today と題するオンライン・ワークショップを行った。特筆すべきは、2022年8月に北海道大学で行った、本研究プロジェクト全体の成果報告会である。会場にも多数の参加者があったが、オンラインでも配信したため、こちらにも多数の参加者があり、活発な質疑応答が行われた。様々な反響があり、アウトリーチとして一定の成功を収めたといつてよい。その成果は youtube 上でも公開しており、一部の動画は2900回近く視聴されている (2024年5月現在)



(6) 総括

本研究は、哲学者・数学者・神経科学者・精神医学者・ロボティクス研究者の直接的で緊密な連携により、学際的な意識研究の新しいスタイルを生み出し、研究内容としては、「意識変容」を媒介として意識の構造を浮き彫りにすることを目指して開始した。最初に掲げた高い目標に対して、本研究の成果が十分な満足を与えるものであるとは言えないとしても、とりわけ新しい学際的研究スタイルを生み出すという点では、大きな成果を挙げることができたと考えている。単なる分業による学際研究ではなく、研究の着想段階から、緊密な議論によって人文科学と自然科学・数理科学が融合した研究を実現しようということを示した点では、こうした方向での異分野融合研究の展開に先鞭をつけたと言える。こうした研究スタイルにより、従来の学問分類からは位置づけの難しい独創的な成果が生み出された。二つの主要論文は、哲学・数学・神経科学・精神医学・心理学・情報科学などに跨った研究となっており、従来の学問間の境界を大幅に乗り越えた成果となっている。こうした観点は、各メンバーによる多数の研究成果にも生かされている。研究期間終了後も、越境的な共同研究が積極的に続けられており、更なる成果を生み出していくことが期待できる。本研究は、その開始点となった点に重要な意義があると言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計93件（うち査読付論文 59件 / うち国際共著 14件 / うちオープンアクセス 62件）

1. 著者名 Taguchi Shigeru	4. 巻 1
2. 論文標題 Ur-Ich, as a Concept in Phenomenology	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Phenomenology	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-47253-5_413-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taguchi Shigeru	4. 巻 121
2. 論文標題 How to Become Conscious of Consciousness: A Mediation-Focused Approach	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Varieties of Self-Awareness. Contributions to Phenomenology	6. 最初と最後の頁 193-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-39175-0_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taguchi Shigeru, Saigo Hayato	4. 巻 14
2. 論文標題 The monoid-now: a category theoretic approach to the structure of phenomenological time-consciousness	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1237984
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2023.1237984	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirota Ryuzo, Saigo Hayato, Taguchi Shigeru	4. 巻 -
2. 論文標題 Reformalizing the notion of autonomy as closure through category theory as an arrow-first mathematics	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Artificial Life Conference Proceedings 2023	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/isal_a_00627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂	4. 巻 93(6)
2. 論文標題 意識をもつになぜ身体が必要なのか 身体的潜在経験の世界へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 492-495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 媒介 が開く知の光景 ラトゥールと田辺哲学と現象学の交叉点	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 185-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂	4. 巻 -
2. 論文標題 田辺元の「媒介」概念とそのポテンシャル	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 危機の時代と田辺哲学	6. 最初と最後の頁 97-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishio Yoshiyuki, Amemiya Kiyomi, Ohyama Jun	4. 巻 -
2. 論文標題 Parkinsonism in bipolar disorder: a clinical-neuroimaging study	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 medRxiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2024.02.23.24303233	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe H, Uchiyama M, Yokoi K, Mamiya Y, Narita W, Iizuka O, Baba T, Suzuki K, Mori E, Nishio Y*	4. 巻 113
2. 論文標題 Behavioral and neural correlates of pareidolic illusions in dementia with Lewy bodies	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Parkinsonism Relat Disord	6. 最初と最後の頁 105513
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parkreldis.2023.105513	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinohara M, Yokoi K, Hirayama K, Kanno S, Hosokai Y, Nishio Y, Ishioka T, Otsuki M, Takeda A, Aoki M, Hasegawa T, Kikuchi A, Narita W, Mori E, Suzuki K	4. 巻 17
2. 論文標題 Mirror writing and cortical hypometabolism in Parkinson's disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0279007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0279007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 2
2. 論文標題 神経心理学の勘所：注意	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Neuro Logica	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 1
2. 論文標題 神経心理学の勘所：視空間認知	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Neuro Logica	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 3
2. 論文標題 神経心理学の勘所：言語	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neuro Logica	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 2
2. 論文標題 神経心理学の勘所：記憶	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neuro Logica	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 81
2. 論文標題 パーキンソン病の精神・行動症状	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本臨牀	6. 最初と最後の頁 1230-1235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田正俊、宮園健吾、西尾慶之、山下祐一、鈴木啓介	4. 巻 38
2. 論文標題 自由エネルギー原理，能動的視覚，サリエンス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人工知能	6. 最初と最後の頁 787-795
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11517/jjsai.38.6_787	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 51
2. 論文標題 運動疾患における精神症状と精神疾患における運動症状	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 513-518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 35
2. 論文標題 レビー小体病の精神症状と内因性精神病の運動症状	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 総合病院精神医学	6. 最初と最後の頁 216-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kengo Miyazono & Rie Iizuka	4. 巻 202(1)
2. 論文標題 A group identification account of collective epistemic vices	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Synthese	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11229-023-04235-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kengo Miyazono & Uku Tooming	4. 巻 -
2. 論文標題 Imagination as a generative source of justification	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nous	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/nous.12458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kengo Miyazono	4. 巻 -
2. 論文標題 Epistemic libertarian paternalism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Erkenntnis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10670-023-00664-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 謝 淇榕、田中 彰吾	4. 巻 31
2. 論文標題 呼吸法の学習過程についての考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人体科学	6. 最初と最後の頁 1~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20788/jmbs.31.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mariia Shuvalova, Shogo Tanaka	4. 巻 31
2. 論文標題 Self-identity in a virtual space: Consideration from an embodied perspective	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Civilization	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 柳川 耕平	4. 巻 31
2. 論文標題 フッサールの初期、中期時間論におけるヒュレー・感覚について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アルケー	6. 最初と最後の頁 137-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳川耕平	4. 巻 20
2. 論文標題 フッサル現象学の鍵概念(1) 時間 体験流を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フッサル研究	6. 最初と最後の頁 44-66
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳川耕平	4. 巻 680
2. 論文標題 フッサルにおける時間と歴史について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 121-135
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳川耕平	4. 巻 38
2. 論文標題 フッサル時間論における時間構成の習慣による再解釈	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 75-82
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富山 豊	4. 巻 21
2. 論文標題 フッサル現象学の鍵概念(2):「志向性」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『フッサル研究』	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富山 豊	4. 巻 137(810)
2. 論文標題 現象学の圏論的展開は可能か	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『哲学雑誌』	6. 最初と最後の頁 82-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富山 豊	4. 巻 8
2. 論文標題 フッサール数学論における「計算」・「演繹」・「直観」の付置	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 225-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富山 豊	4. 巻 41
2. 論文標題 フッサール数学論における「確定多様体」概念をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 駒澤大学『文化』	6. 最初と最後の頁 80-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Yuuki, Hikida Takatoshi, Yamashita Yuichi	4. 巻 16
2. 論文標題 Computational Mechanisms of Osmoregulation: A Reinforcement Learning Model for Sodium Appetite	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2022.857009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Idei Hayato, Ohata Wataru, Yamashita Yuichi, Ogata Tetsuya, Tani Jun	4. 巻 12
2. 論文標題 Emergence of sensory attenuation based upon the free-energy principle	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-18207-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Yuta, Murata Shingo, Ueki Masao, Tomita Hiroaki, Yamashita Yuichi	4. 巻 7
2. 論文標題 Interaction between Functional Connectivity and Neural Excitability in Autism: A Novel Framework for Computational Modeling and Application to Biological Data	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Computational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 14 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5334/cpsy.93	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Soda Takafumi, Ahmadi Ahmadreza, Tani Jun, Honda Manabu, Hanakawa Takashi, Yamashita Yuichi	4. 巻 14
2. 論文標題 Simulating developmental diversity: Impact of neural stochasticity on atypical flexibility and hierarchy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2023.1080668	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Okimura Tsukasa, Maeda Takaki, Mimura Masaru, Yamashita Yuichi	4. 巻 9
2. 論文標題 Aberrant sense of agency induced by delayed prediction signals in schizophrenia: a computational modeling study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Schizophrenia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41537-023-00403-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noda Kamma, Soda Takafumi, Yamashita Yuichi	4. 巻 18
2. 論文標題 Emergence of number sense through the integration of multimodal information: developmental learning insights from neural network models	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2024.1330512	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Idei Hayato, Yamashita Yuichi	4. 巻 169
2. 論文標題 Elucidating multifinal and equifinal pathways to developmental disorders by constructing real-world neurorobotic models	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Neural Networks	6. 最初と最後の頁 57 ~ 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neunet.2023.10.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 布山 美慕、西郷 甲矢人	4. 巻 30
2. 論文標題 不定性の可能性に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 389 ~ 390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2023.046	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 布山 美慕、西郷 甲矢人	4. 巻 29
2. 論文標題 解釈の不定性の価値と量子認知による文章解釈研究の展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 100 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2021.072	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuchiya Naotsugu, Bruza Peter D, Yamada Makiko, Saigo Hayato, Pothos Emmanuel	4. 巻 -
2. 論文標題 A Quantum Qualia hypothesis: from Quantum Cognition to Quantum Perception	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PsyArXiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31234/osf.io/9m5yp	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Otsuka Jun, Saigo Hayato	4. 巻 51
2. 論文標題 Process theory of causality: a category-theoretic perspective	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Behaviormetrika	6. 最初と最後の頁 21 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41237-023-00197-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuchiya Naotsugu, Phillips Steven, Saigo Hayato	4. 巻 101
2. 論文標題 Enriched category as a model of qualia structure based on similarity judgements	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Consciousness and Cognition	6. 最初と最後の頁 103319 ~ 103319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.concog.2022.103319	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuchiya Naotsugu, Saigo Hayato, Phillips Steven	4. 巻 13
2. 論文標題 An adjunction hypothesis between qualia and reports	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2022.1053977	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Jun Otsuka, Hayato Saigo	4. 巻 -
2. 論文標題 On the Equivalence of Causal Models: A Category-Theoretic Approach	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 arXiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.48550/arXiv.2201.06981	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Polyakova Zlata, Iwase Masao, Hashimoto Ryota, Yoshida Masatoshi	4. 巻 16
2. 論文標題 The effect of ketamine on eye movement characteristics during free-viewing of natural images in common marmosets	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2022.1012300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takakuwa Norihiro, Isa Kaoru, Yamaguchi Reona, Onoe Hiroataka, Takahashi Jun, Yoshida Masatoshi, Isa Tadashi	4. 巻 4
2. 論文標題 Protocol for making an animal model of "blindsight" in macaque monkeys	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 STAR Protocols	6. 最初と最後の頁 101960 ~ 101960
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.xpro.2022.101960	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshida Masatoshi, Miura Kenichiro, Fujimoto Michiko, Yamamori Hidenaga, Yasuda Yuka, Iwase Masao, Hashimoto Ryota	4. 巻 14
2. 論文標題 Visual salience is affected in participants with schizophrenia during free-viewing	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-024-55359-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内大	4. 巻 40
2. 論文標題 18・19世紀におけるネクロマンシーの理論と実践：エリファス・レヴィとエッカルツハウゼン	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『立正大学文学部研究紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂	4. 巻 28
2. 論文標題 外 と 内 の切断と接続：認知と生命の本質をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 211～216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2021.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂	4. 巻 49(9)
2. 論文標題 媒介された自由 媒介論的現象学の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Wataru, Iizuka Hiroyuki, Yamamoto Masahito, Taguchi Shigeru	4. 巻 12
2. 論文標題 Superposition mechanism as a neural basis for understanding others	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-06717-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂、谷 淳、清田 陽司、三宅 陽一郎、大内 孝子	4. 巻 36
2. 論文標題 レクチャーシリーズ：「AI 哲学マップ」〔第2 回〕哲学者の眼差しと科学者の目が交差する，新たな場所へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人工知能	6. 最初と最後の頁 361～373
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11517/jjsai.36.3_361	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Idei Hayato, Murata Shingo, Yamashita Yuichi, Ogata Tetsuya	4. 巻 138
2. 論文標題 Paradoxical sensory reactivity induced by functional disconnection in a robot model of neurodevelopmental disorder	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neural Networks	6. 最初と最後の頁 150～163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neunet.2021.01.033	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Yuta, Murata Shingo, Idei Hayato, Tomita Hiroaki, Yamashita Yuichi	4. 巻 11
2. 論文標題 Neural network modeling of altered facial expression recognition in autism spectrum disorders based on predictive processing framework	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-021-94067-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Yuki, Ogata Yousuke, Honda Manabu, Yamashita Yuichi	4. 巻 15
2. 論文標題 Deep Feature Extraction for Resting-State Functional MRI by Self-Supervised Learning and Application to Schizophrenia Diagnosis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fnins.2021.696853	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Hiroyuki, Hashimoto Yuki, Sugihara Genichi, Miyata Jun, Murai Toshiya, Takahashi Hidehiko, Honda Manabu, Hishimoto Akitoyo, Yamashita Yuichi	4. 巻 15
2. 論文標題 Three-Dimensional Convolutional Autoencoder Extracts Features of Structural Brain Images With a “Diagnostic Label-Free” Approach: Application to Schizophrenia Datasets	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2021.652987	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 IRIKI Atsushi, SUZUKI Hiroaki, TANAKA Shogo, BRETAS VIEIRA Rafael, YAMAZAKI Yumiko	4. 巻 63
2. 論文標題 THE SAPIENT PARADOX AND THE GREAT JOURNEY: INSIGHTS FROM COGNITIVE PSYCHOLOGY, NEUROBIOLOGY, AND PHENOMENOLOGY	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PSYCHOLOGIA	6. 最初と最後の頁 151 ~ 173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psychoc.2021-B017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 田中彰吾	4. 巻 50(7)
2. 論文標題 現代の現象学と精神医学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 727-732
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷 淳	4. 巻 28
2. 論文標題 池上「生命理論としての認知科学：減算と縮約の哲学をめぐって」へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 222 ~ 230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2021.005	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishioka Toshiyuki, Hirayama Kazumi, Hosokai Yoshiyuki, Takeda Atsushi, Suzuki Kyoko, Nishio Yoshiyuki, Sawada Yoichi, Abe Nobuhito, Mori Etsuro	4. 巻 32
2. 論文標題 Impaired perception of illusory contours and cortical hypometabolism in patients with Parkinson's disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NeuroImage: Clinical	6. 最初と最後の頁 102779 ~ 102779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.nicl.2021.102779	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hosokawa Hiroaki, Kanno Shigenori, Nishio Yoshiyuki, Kawasaki Iori, Hirayama Kazumi, Sunaga Atsuko, Shoji Naotake, Iwasaki Masaki, Nakasato Nobukazu, Tominaga Teiji, Suzuki Kyoko	4. 巻 16
2. 論文標題 Facial memory ability and self-awareness in patients with temporal lobe epilepsy after anterior temporal lobectomy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0248785	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 73
2. 論文標題 特集「目」の神経学 幻視症候群小辞典-幻視をきたすさまざまな病態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BRAIN and NERVE	6. 最初と最後の頁 1249 ~ 1257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1416201925	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾慶之	4. 巻 32(6)
2. 論文標題 老年期にみられる幻視・錯視	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 641-648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾 慶之	4. 巻 73
2. 論文標題 特集 意識 . ヒトを対象とした実験的アプローチ レビー小体型認知症の幻視,パレイドリア,実体意識性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生体の科学	6. 最初と最後の頁 3~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.2425201455	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyazono Kengo	4. 巻 1
2. 論文標題 On Smithies' Argument from Blindsight	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of Philosophy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s44204-022-00012-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyazono Kengo, Inarimori Kiichi	4. 巻 12
2. 論文標題 Empathy, Altruism, and Group Identification	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.749315	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazono Kengo	4. 巻 8
2. 論文標題 Visual Experiences without Presentational Phenomenology	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ergo: an Open Access Journal of Philosophy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3998/ergo.1156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuchiya Naotsugu, Saigo Hayato	4. 巻 2021
2. 論文標題 A relational approach to consciousness: categories of level and contents of consciousness	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuroscience of Consciousness	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/nc/niab034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saigo Hayato	4. 巻 13
2. 論文標題 Quantum Fields as Category Algebras	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Symmetry	6. 最初と最後の頁 1727 ~ 1727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/sym13091727	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saigo Hayato	4. 巻 13
2. 論文標題 Quantum Fields as Category Algebras	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Symmetry	6. 最初と最後の頁 1727 ~ 1727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/sym13091727	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Isa Tadashi, Yoshida Masatoshi	4. 巻 469
2. 論文標題 Neural Mechanism of Blindsight in a Macaque Model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuroscience	6. 最初と最後の頁 138 ~ 161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroscience.2021.06.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内 大	4. 巻 6 (3)
2. 論文標題 魔術的現象のリアリティ : 魔女容疑者の体験分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フィルカル	6. 最初と最後の頁 226-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 大	4. 巻 59
2. 論文標題 「妖精の宴」から「魔女のサバト」へ : 儀式と軟膏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立正大学人文科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内 大	4. 巻 53(14)
2. 論文標題 エリファス・レヴィにおけるタロット占いの意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 68-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳川耕平	4. 巻 32
2. 論文標題 初期および中期フッサール時間論における時間位置の個体化について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館哲学	6. 最初と最後の頁 119-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Balogh Lehel, Tanaka Masaru, Torok Nora, Vecsei Laszlo, Taguchi Shigeru	4. 巻 9
2. 論文標題 Crosstalk between Existential Phenomenological Psychotherapy and Neurological Sciences in Mood and Anxiety Disorders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biomedicines	6. 最初と最後の頁 340 ~ 340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/biomedicines9040340	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 田口 茂, 大塚 淳, 西郷 甲矢人	4. 巻 47
2. 論文標題 現象学的明証論と統計学 経験の基本的構造を求めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学論叢	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 茂, 西郷 甲矢人	4. 巻 48(9)
2. 論文標題 圏論による現象学の深化 射の一元論・モナドロジー・自己	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 202-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tani Jun, White Jeffrey	4. 巻 30
2. 論文標題 Cognitive neurorobotics and self in the shared world, a focused review of ongoing research	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Adaptive Behavior	6. 最初と最後の頁 81 ~ 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1059712320962158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ohata Wataru, Tani Jun	4. 巻 14
2. 論文標題 Investigation of the Sense of Agency in Social Cognition, Based on Frameworks of Predictive Coding and Active Inference: A Simulation Study on Multimodal Imitative Interaction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Neurobotics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnbot.2020.00061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ataria Yochai, Tanaka Shogo	4. 巻 43
2. 論文標題 When Body Image Takes over the Body Schema: The Case of Frantz Fanon	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Studies	6. 最初と最後の頁 653 ~ 665
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10746-020-09543-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kato Ayaka, Kunisato Yoshihiko, Katahira Kentaro, Okimura Tsukasa, Yamashita Yuichi	4. 巻 11
2. 論文標題 Computational Psychiatry Research Map (CPSYMAP): A New Database for Visualizing Research Papers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2020.578706	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Yuichi	4. 巻 75
2. 論文標題 Psychiatric disorders as failures in the prediction machine	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 1 ~ 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13173	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下 祐一	4. 巻 179
2. 論文標題 脳の計算の異常として心の病を探る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ACADEMIA	6. 最初と最後の頁 48-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋英彦, 山下祐一, 銅谷賢治	4. 巻 38
2. 論文標題 AIと脳神経科学 精神神経疾患へのデータ駆動と理論駆動のアプローチ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1358-1363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tooming Uku, Miyazono Kengo	4. 巻 199
2. 論文標題 Vividness as a natural kind	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Synthese	6. 最初と最後の頁 3023 ~ 3043
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11229-020-02920-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazono Kengo, Salice Alessandro	4. 巻 199
2. 論文標題 Social epistemological conception of delusion	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Synthese	6. 最初と最後の頁 1831 ~ 1851
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11229-020-02863-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宮園健吾	4. 巻 134(807)
2. 論文標題 妄想と証拠	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学雑誌	6. 最初と最後の頁 90-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chen Chih-Yang, Matrov Denis, Veale Richard, Onoe Hiroataka, Yoshida Masatoshi, Miura Kenichiro, Isa Tadashi	4. 巻 125
2. 論文標題 Properties of visually guided saccadic behavior and bottom-up attention in marmoset, macaque, and human	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Neurophysiology	6. 最初と最後の頁 437 ~ 457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1152/jn.00312.2020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada Ken-ichi, Miura Kenichiro, Fujimoto Michiko, Morita Kentaro, Yoshida Masatoshi, Yamamori Hidenaga, Yasuda Yuka, Iwase Masao, Inagaki Mikio, Shinozaki Takashi, Fujita Ichiro, Hashimoto Ryota	4. 巻 11
2. 論文標題 Impaired inhibition of return during free-viewing behaviour in patients with schizophrenia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-82253-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Rikako, Hayashi Takuya, Onoe Kayo, Yoshida Masatoshi, Tsukada Hideo, Onoe Hiroataka, Isa Tadashi, Ikeda Takuro	4. 巻 4
2. 論文標題 The posterior parietal cortex contributes to visuomotor processing for saccades in blindsight macaques	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-021-01804-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hafed Ziad M., Yoshida Masatoshi, Tian Xiaoguang, Buonocore Antimo, Malevich Tatiana	4. 巻 15
2. 論文標題 Dissociable Cortical and Subcortical Mechanisms for Mediating the Influences of Visual Cues on Microsaccadic Eye Movements	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Neural Circuits	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fncir.2021.638429	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計97件 (うち招待講演 68件 / うち国際学会 36件)

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 Tanabe's Mediation Theory: Its Essence and Potentialities
3. 学会等名 Colloque international de phenomenologie La phenomenologie et "l'oubli" du Japon. Role et signification du "Japon" dans la phenomenologie au XXIe siecle (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 自他の重ね合わせと相互媒介 哲学×AIの融合研究
3. 学会等名 北海道大学電子科学研究所×日立北大ラボ 新領域探索シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 From Relation to Mediation: The Potential of 'Disconnecting Connection' in Husserl and Hajime Tanabe
3. 学会等名 RELATION IN PHENOMENOLOGY, PHENOMENOLOGY IN RELATION: Intra - and Interdisciplinary Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 Intentionality as Disconnecting Connection: An Application of Hajime Tanabe's Concept of Mediation in Phenomenology
3. 学会等名 International Conference: Intentionality and Phenomenality (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 What is 'Ur-Ich' in Husserl? An inquiry into the self prior to the one/many dichotomy
3. 学会等名 CFS lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 人工主体とのインタラクションと生命の「脆さ」 AIと共生する未来に向けて
3. 学会等名 第8回全脳アーキテクチャ・シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 Interaction with artificial agents and the possibility of life-like AI
3. 学会等名 Cross Roads #40 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 人工主体とのインタラクションと「脆さ」の意義 現象学とエナクティヴィズムの視点から
3. 学会等名 第37回人工知能学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 「媒介」概念の可能性 現代的コンテキストにおける田辺哲学
3. 学会等名 第39回 西田・田辺記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 Husserl and Tanabe on mediated subjectivity and community
3. 学会等名 Husserl's Ethics and Social Philosophy in Context. The Kaizo Articles Centenary Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 The Mediated-Mediating Nature of Consciousness: An Enactive and Phenomenological Exploration of the Twisted Loop between Body and World
3. 学会等名 Workshop "Self and Infinity"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 瞬間のなかで永遠に参加すること 現代社会における「いのち」の価値の再認
3. 学会等名 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 AI技術が問いかけているもの AI倫理をめぐる現状と諸問題
3. 学会等名 コニカミノルタ株式会社 AI倫理講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 田辺元の「媒介」概念とそのインパクト
3. 学会等名 連続講座「朝向世界的の日本哲学」第五講（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 How is consciousness mediated by the body?: Phenomenological and enactive approaches
3. 学会等名 Final Meeting of the Kakenhi Transformative Research Areas (B): Understanding the relationship between the structure of qualia and information（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 Self in Superposition: Husserl and Tanabe on the nature of the self
3. 学会等名 4E Cognition Workshop 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 From Ontology to Mediation: How to become conscious of consciousness
3. 学会等名 Varieties of Self-Awareness: International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 Mediation and Contextuality: Rethinking the concept of consciousness
3. 学会等名 Consciousness Talks 2: Phenomenology and Quantum Cognition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 脱抑制：前頭葉病変にともなう精神行動症状
3. 学会等名 第64回日本神経学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 アルツハイマー病の早期診断・鑑別診断
3. 学会等名 アルツハイマー病疾患修飾薬講習会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 レビー小体型認知症
3. 学会等名 足立区かかりつけ医認知症研修会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 視床損傷と認知行動障害
3. 学会等名 第43回日本認知症学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 実用的神経心理学
3. 学会等名 第22回日本神経学会専門医育成セミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 埜卒 大喜、西尾 慶之
2. 発表標題 前部側頭葉と概念知識
3. 学会等名 第47回日本神経心理学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 脱抑制と内容特異的妄想
3. 学会等名 第27回日本神経精神医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 レビー小体型認知症
3. 学会等名 葛飾区かかりつけ医認知症研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 いわゆる ' エピソード記憶 ' について考える
3. 学会等名 第54回関東臨床神経心理研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 レビー小体病の精神症状の病態と治療を考える
3. 学会等名 第16回パーキンソン病運動障害疾患コンgres (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾 慶之
2. 発表標題 電気けいれん療法によって運動障害と混合型うつ症状が改善したパーキンソン病の1例
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 自己の階梯 - 前反省から反省へ、身体から物語へ
3. 学会等名 シンポジウム「自己の科学は可能か - 心身脳問題として考える」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 身体のプロジェクションと自己の進化
3. 学会等名 2023年度日本認知科学会第40回大会 0S-11「自己と身体の相互構築とプロジェクション」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 「情解」と「知解」をめぐって
3. 学会等名 2023年度人工知能学会全国大会 OS-28「知・情・意 - AIが人間研究になるための枠組み」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 現代の脳神経科学と現象学
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会・公募シンポジウム「現象学から始まる心理学史と心の哲学史」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiichi Inarimori, Masashi Takeshita, Kengo Mlyazono
2. 発表標題 Artificial intuitions
3. 学会等名 Tokyo Forum for Analytic Philosophy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiichi Inarimori, Yusuke Haruki, Kengo Mlyazono
2. 発表標題 The impact of misunderstanding determinism and its limitations
3. 学会等名 3rd European Experimental Philosophy Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiichi Inarimori, Yusuke Haruki, Kengo Miyazono
2. 発表標題 Do people understand determinism?
3. 学会等名 The UK Experimental Philosophy Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Delusions and evidence
3. 学会等名 F2RSM Psy Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Delusions, conspiracy theories, and testimony
3. 学会等名 University of Lille (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Group delusion and folie a deux
3. 学会等名 Philosophy of Psychiatry Webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳川 耕平
2. 発表標題 「私」のネットワークとしての時空、そして歴史
3. 学会等名 第11回時間偶然研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kohei Yanagawa
2. 発表標題 A tentative consideration of “sharing same time”
3. 学会等名 40th International Human Science Research Conference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kohei Yanagawa
2. 発表標題 Enactivism and Husserl's time-theory
3. 学会等名 Okayama Phenomenology Workshop for Early-Career Researchers（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柳川 耕平
2. 発表標題 フッサールの初期・中期時間論におけるヒュレー・感覚について
3. 学会等名 関西哲学会第75回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kohei Yanagawa, Hiroshi Matsui
2. 発表標題 Misunderstanding about behaviorism in philosophy: The case of Gallagher's enactivism
3. 学会等名 Hokkaido-Tartu philosophy workshop (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 Aberrant processing of visual salience in schizophrenia
3. 学会等名 The 3rd Meeting of Consciousness Research Network (CoRN 2023) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Polyakova, Z., Yoshida, M.
2. 発表標題 Saccadic eye movements and visual saliency in pharmaco-logical model of schizophrenia during free-viewing in common marmosets
3. 学会等名 第45回日本神経科学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Matsui, H., Komatsu, M., Kaneko, T. Okano, H., Ichinohe, N., Yoshida, M.
2. 発表標題 Common areas for detecting deviation: visual and auditory mismatch negativities from whole-cortical electrocorticogram (ECoG) arrays in common marmosets
3. 学会等名 第45回日本神経科学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田 正俊
2. 発表標題 知覚と行動と学習をつなぐ自由エネルギー原理
3. 学会等名 応用脳科学アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Matsui, H., Komatsu, M., Kaneko, T. Okano, H., Ichinohe, N., Yoshida, M.
2. 発表標題 Common and modality specific areas between visual and auditory mismatch negativities recorded from whole-cortical electrocorticogram (ECoG) arrays in common marmosets
3. 学会等名 第12回マーモセット研究会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshida, M., Polyakova, Z.
2. 発表標題 Ketamine affects eye movement characteristics during free-viewing of natural images in common marmosets
3. 学会等名 第12回マーモセット研究会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 正俊
2. 発表標題 サリエンシーマップの注意研究への応用
3. 学会等名 日本心理学会「注意と認知」研究会 第21回合宿研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 正俊
2. 発表標題 Visual salience in schizophrenia
3. 学会等名 東北大学通研共同プロジェクト研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshida, M., Polyakova, Z., Iwase, M., Hashimoto, R.
2. 発表標題 Visual salience in schizophrenia during free-viewing
3. 学会等名 第46回日本神経科学大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 正俊
2. 発表標題 知覚と行動と学習をつなぐ自由エネルギー原理
3. 学会等名 応用脳科学アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 正俊
2. 発表標題 能動的推論と運動制御
3. 学会等名 第23回認知神経リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武内大
2. 発表標題 魔術とは何か?
3. 学会等名 立正オープン・カレッジ (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 人工生命と社会
3. 学会等名 人工生命研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 内部と外部の捻れたループ 意識のイメージを変える
3. 学会等名 シンギュラリティ・サロン (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shigeru Taguchi
2. 発表標題 A twisted loop between inside and outside: Searching for an appropriate image of consciousness based on phenomenology and enactivism
3. 学会等名 ECogS Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 生命の不安定性と生命的コミュニケーション
3. 学会等名 学術知共創プロジェクトワークショップ：VULNERABILITY-AI・ロボット・サイボーグと"ひと"（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下祐一
2. 発表標題 計算論的精神医学による疾病概念の創出：データ駆動・理論駆動の統合的アプローチ
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下祐一
2. 発表標題 計算論的精神医学：精神医学における人工知能技術の役割と展望
3. 学会等名 生理研研究会「人工知能技術と科学の協調と展開」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下祐一
2. 発表標題 計算論的精神医学：脳の計算理論に基づく精神疾患の病態解明
3. 学会等名 千里ライフサイエンスセミナーS2「精神・神経疾患病態解明を切り開く新しい脳機能研究」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takafumi Soda, Ahmadreza Ahmadi, Jun Tani, Manabu Honda, Takashi Hanakawa, Yuichi Yamashita
2. 発表標題 Simulating Atypical Development of Hierarchical and Probabilistic Representations
3. 学会等名 IEEE ICDL 2021 Workshop Spatio-temporal Aspects of Embodied Predictive Processing (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takafumi Soda, Ahmadreza Ahmadi, Jun Tani, Mikio Hoshino, Manabu Honda, Takashi Hanakawa, Yuichi Yamashita
2. 発表標題 Simulating Acquisition of Hierarchical Probabilistic Representations: Implication for Neurodevelopmental Disorders
3. 学会等名 Society of Biological Psychiatry 2021 Annual Meeting, F181 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hayato Idei, Wataru Ohata, Yuichi Yamashita, Tetsuya Ogata, Jun Tani
2. 発表標題 An account of sensory attenuation by free energy principle
3. 学会等名 IEEE International Conference on Development and Learning and on Epigenetic Robotics Workshop StEPP '21 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋雄太, 村田真悟, 富田博秋, 山下祐一
2. 発表標題 脳内領域間機能的結合性の変調が自閉症症状を出現させるメカニズムについての計算論的精神医学研究
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Group delusion and folie a deux
3. 学会等名 Philosophy of Psychiatry Webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiichi Inarimori, Kengo Miyazono
2. 発表標題 Empathy, altruism, and group identification
3. 学会等名 3rd CNY Moral Psychology Workshop (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Salience and affordance in schizophrenia
3. 学会等名 Deluded by Experience Project Workshop on Delusion Formation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 What do we want from a scientific explanation of consciousness?
3. 学会等名 CoRN 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uku Tooming, Kengo Miyazono
2. 発表標題 On the putative epistemic generativity of memory and imagination
3. 学会等名 2nd ANNUAL C.O.V.I.D (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uku Tooming, Kengo Miyazono
2. 発表標題 On the putative epistemic generativity of memory and imagination
3. 学会等名 CPM Internal Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富山 豊
2. 発表標題 他者の感情を理解することは他者の言葉を理解することとどう違うのか
3. 学会等名 瀬戸内哲学研究会オンラインワークショップ「共感と理解」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾慶之
2. 発表標題 前頭葉・右半球の損傷と精神・行動症状
3. 学会等名 第33回東北神経心理懇話会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾慶之
2. 発表標題 高次脳機能障害として診る非アルツハイマー型認知症
3. 学会等名 第118回日本神経精神学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西尾慶之
2. 発表標題 神経（精神）症候学で攻める
3. 学会等名 第36回日本老年精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西尾慶之
2. 発表標題 昏迷とカタトニア：精神科救急における意識変容の鑑別診断
3. 学会等名 第35 回日本神経救急学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Matsui, Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 Common areas for detecting deviation: visual and auditory mismatch negativities from whole-cortical electrocorticogram (ECoG) arrays in common marmosets
3. 学会等名 第44回日本神経科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Matsui, Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 Visual and auditory mismatch negativities from whole-cortical electrocorticogram (ECoG) arrays in common marmosets
3. 学会等名 第11回日本マーモセット研究会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Zlata Polyakova, Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 Saccadic eye movements and visual saliency in pharmacological model of schizophrenia during free-viewing in common marmosets
3. 学会等名 第44回日本神経科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Zlata Polyakova, Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 The effect of ketamine on the saccadic amplitudes and pupil size during free-viewing of images in common marmosets
3. 学会等名 第11回日本マーモセット研究会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武内 大
2. 発表標題 魔術的現象のリアリティ : 魔女容疑者の体験分析
3. 学会等名 立正大学人文科学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳川耕平
2. 発表標題 時間研究における現象学の利点と課題
3. 学会等名 日本時間学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳川耕平
2. 発表標題 フッサール現象学における習慣性概念の時間論的再解釈
3. 学会等名 日本現象学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳川耕平
2. 発表標題 フッサール現象学の鍵概念(1) 時間
3. 学会等名 フッサール研究会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 二つの神経病理事例から運動学習を考える
3. 学会等名 第41回 バイオメカニズム学会学術講演会・シンポジウム「感覚運動学習のバイオメカニズム」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下祐一
2. 発表標題 脳の計算理論を用いて運動主体感異常の病態メカニズムに迫る
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Soda T, Ahmadi A, Tani J, Hoshino M, Honda M, Hanakawa T, Yamashita Y
2. 発表標題 Understanding cognitive impairment in neurodevelopmental disorders as an imbalance between stochastic and deterministic dynamics in neural networks
3. 学会等名 International Symposium on Artificial Intelligence and Brain Science（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamaguchi H, Hashimoto Y, Sugihara G, Miyata J, Murai T, Hanakawa T, Honda M, Yamashita Y
2. 発表標題 Feature extraction for Schizophrenia brain image using Convolutional neural network
3. 学会等名 International Symposium on Artificial Intelligence and Brain Science（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西尾慶之
2. 発表標題 妄想の奇異さについての考察
3. 学会等名 第46回日本神経心理学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Epistemic libertarian paternalism
3. 学会等名 Workshop: Striving for Perfection (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kengo Miyazono
2. 発表標題 Epistemic theodicy and doxastic voluntarism
3. 学会等名 Analytic Philosophy of Religion in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田口 茂
2. 発表標題 「境界のない外」をどう考えられるか? 現象学の観点から
3. 学会等名 第31回 全脳アーキテクチャ勉強会: 予測する脳と主体性の現象学 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Polyakova Zlata, Misako Komatsu, Tetsuo Yamamori, Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 Ketamine affects saccadic eye movements during free-viewing, peri-saccadic activity measured from whole-cortical electrocorticogram (ECoG) arrays, and Ca signals in posterior parietal cortex (PPC) in common marmosets
3. 学会等名 第10回日本マーモセット研究会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Matsui, Misako Komatsu, Takaaki Kaneko, Hideyuki Okano, Noritaka Ichinohe, Masatoshi Yoshida
2. 発表標題 Deviance detection in visual mismatch negativity (MMN) measured from whole-cortical electrocorticogram (ECoG) arrays in common marmosets
3. 学会等名 第10回日本マーモセット研究会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富山豊
2. 発表標題 現代哲学の源流を辿る(1) フッサールとハイデガー
3. 学会等名 UTCPシンポジウム「現代哲学の源流を辿る(1) フッサールとハイデガー」(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 田中 彰吾、今泉 修、金山 範明、浅井 智久、弘光 健太郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 224
3. 書名 自己の科学は可能か	

1. 著者名 富山豊	4. 発行年 2023年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 288
3. 書名 フッサール 志向性の哲学	

1. 著者名 古茶大樹, 糸川昌成, 村井俊哉 編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 240
3. 書名 統合失調症という問い	

1. 著者名 鬼塚俊明, 橋本亮太編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新興医学出版社	5. 総ページ数 280
3. 書名 精神医学領域の論文を読みこなすキーワード100!	

1. 著者名 西郷甲矢人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 技術評論社	5. 総ページ数 488
3. 書名 圏論の地平線	

1. 著者名 荒畑靖宏・吉川孝編(執筆者に田口茂、武内大を含む)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 あらわれを哲学する : 存在から政治まで	

1. 著者名 河本 英夫、武内 大、田口 茂、富山 豊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 272
3. 書名 現象学 未来からの光芒	

1. 著者名 Yochai Ataria, Shogo Tanaka, Shaun Gallagher (Eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 384
3. 書名 Body Schema and Body Image: New Directions	

1. 著者名 Kengo Miyazono, Lisa Bortolotti	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Polity Press	5. 総ページ数 224
3. 書名 Philosophy of Psychology: An Introduction	

1. 著者名 杉村 靖彦、田口 茂、竹花 洋佑	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 渦動する象徴	

1. 著者名 Christian Tewes, Giovanni Stanghellini (Eds.), Shogo Tanaka et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 400
3. 書名 Time and Body: Phenomenological and Psychopathological Approaches	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 正俊 (Yoshida Masatoshi) (30370133)	北海道大学・人間知・脳・AI研究教育センター・特任准教授 (10101)	
研究分担者	西郷 甲矢人 (Saigo Hayato) (80615154)	長浜バイオ大学・バイオサイエンス学部・教授 (34204)	
研究分担者	谷 淳 (Tani Jun) (60425634)	沖縄科学技術大学院大学・認知脳ロボティクス研究ユニット・教授 (38005)	
研究分担者	田中 彰吾 (Tanaka Shogo) (40408018)	東海大学・文化社会学部・教授 (32644)	
研究分担者	山下 祐一 (Yamashita Yuichi) (40584131)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・神経研究所 疾病研究第七部・室長 (82611)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西尾 慶之 (Nishio Yoshiyuki) (90451591)	地方独立行政法人東京都立病院機構松澤病院（臨床研究室）・精神科・医師 (82814)	
研究分担者	宮園 健吾 (Miyazono Kengo) (20780266)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	武内 大 (Takeuchi Dai) (10623514)	立正大学・文学部・教授 (32687)	
研究分担者	富山 豊 (Tomiyama Yutaka) (60782175)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・研究員 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 啓介 (Suzuki Keisuke) (60516029)	北海道大学・人間知・脳・AI研究教育センター・准教授 (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The Significance of Phenomenology Today	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

オーストラリア	モナシュ大学	クイーンズランド工科大学	メルボルン大学	
イタリア	パドヴァ大学			
米国	メンフィス大学			
イスラエル	Tel-Hai College			
英国	パーミンガム大学			
ハンガリー	セゲド大学	MTA-SZTE, Neuroscience Research Group		
ポルトガル	Universidade Nova De Lisboa			
アイルランド	University College Cork			
ドイツ	チュービンゲン大学			